

21世紀究極のクルマ改造本!

G-works

ジーワークス



全開を楽しむGT-R

2013

5

定価 580円

特集

フェアレディZの進化を見よ!



S30
S31



旧車ホイールマッチング
パナスポーツ

MSR



キャブレター

2
T
G



ポート加工・2

カラー
マッチング
コーナースタート!

特別な

M3



230
930 クルマたち

ピックアップ
箱
ス
カ
ダン & H
I

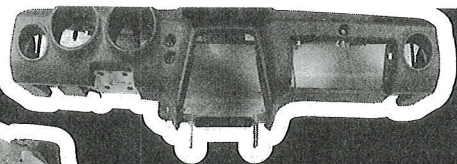


ピックアップ
2

サニーのレーシングカー!



HLS30純正



生産から何十年も経ち、その間、色んな環境にさらされてくれば、それなりにパーツは傷むもの。このS30ダッシュボードも例外でなく、弱点ともいえる3連メーター部から豪快に割れている

割れてしまった

旧車の
悩み
どころ

経年による樹脂パーツの劣化は、旧車乗りにとって悩みの種。とりわけダッシュボードのヒビ割れはその代表とも言えるけど、新品パーツをひたすら探すしか対策はない? いやいや、リペアという方法もあるんです。今回はパーツリペアをおこなっているスプリームモータースのダッシュボード修復作業を見せてもらったぞ

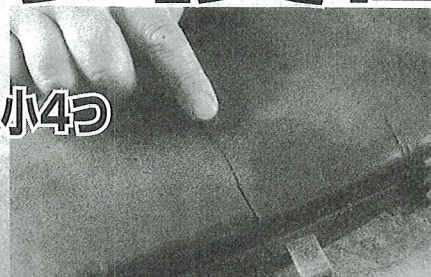
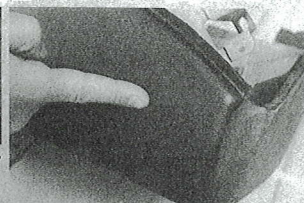
色褪せ
ヒビ割れ
キズ

ダッシュボードの修復工程

全体的な色褪せとヒビ割れが大小4つ



シミのような部分も所々に見える状態だ



黒いハズのダッシュボードが白っぽく色褪せてしまっている上に、ヒビ割れや窪んだキズがちらほら…

ブツけた跡が2つ。このダッシュは再利用できる!?

取材協力* スプリームモータース



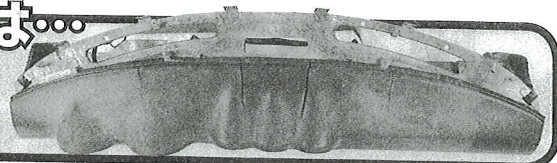
今回お邪魔したスプリームモータースでは、ダッシュボード修復の他、ガリキズの付いたアルミホイール、シート・ハンドルの破れなど、自動車パーツのリペアを幅広く手がけている

東京都立川市柏町3-1-2
TEL 042-537-3586
<http://www.supreme-motors.net>

塗装ブース

リペア済みのリム

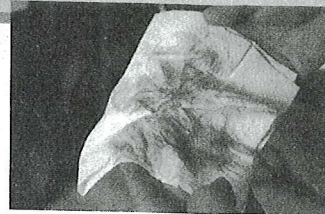
ダッシュボード修復のポイントは... 色・補強・シボの再現



スプリーム
モータース
代表
岡田さん



工程1 清掃&下地づくり



拭いた後 元のスポンジ
キズの位置や程度の確認をおこなった
ら、まずはクリーニングからスタート。
表面の清掃は3回に分けておこない、1
〜2回目はシリコン系の薬剤で汚れを
落とし、3回目では薬剤を変えて脱脂す
るのが目的。拭き上げていくとスポン
ジは真っ黒に



リペアだけ
じゃない
リフレッシュには
クリーニングも効果的



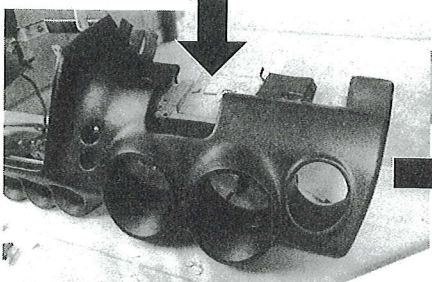
割れなどが無い状態
なら、クリーニングを
しっかりとおこなう
ことで見えるよう
になることも。シボの
間に入った汚れなど
で白く見えている場
合もあると言う



汚れを落とすのは、修復に使うパテや塗料
の密着を良くする意味の他、調色用にダッ
シュボード本来の色を出すためでもある

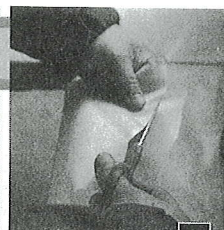
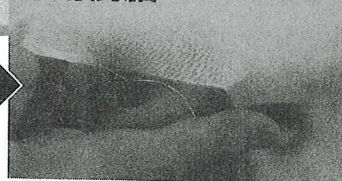


3度拭きを入念に



シリコン系薬剤で表面を拭くとツヤが出るが、3
度目の脱脂をおこなうと再びマイルドなテカリに

ファイバーと
専用樹脂



工程2 裏地貼り

ダッシュが変形し、引っ張られて発生したよう
な大きなヒビ割れには、「裏打ち」をおこなう。
目が細かく、細いファイバーで構成されたシー
トを裏側に貼ることで、樹脂の収縮によるヒビ
の再発防止や強度を出すため。シートはヒビの
大きさ(長さ)に合わせてカットしておく



裏側

このシートは薄いため、貼りつけた部分が段差にな
りづらいのが特徴。硬化した後は驚くことに指で触
ってもほとんど貼ったのがわからないほど

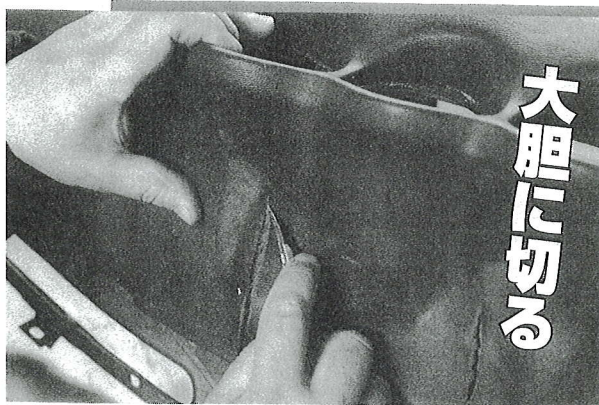
隙間が見える
ほどのゴツさに



シートを貼りつけるのは向こう側が見えるほど
隙間の開いた大きなヒビの裏側。表面が反って
しまっているような割れに使う。今回のS30ダ
ッシュボードでは3連メーター部分の2箇所



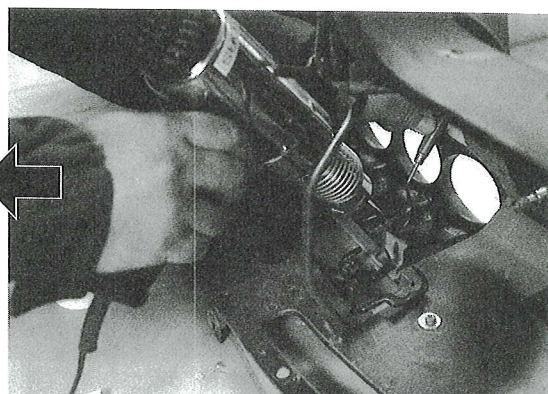
ファイバーシートを貼るために使うのは、熱硬化性(熱
を加えると固まる)の専用樹脂(接着剤)。付けすぎない
ようにするため、コテで漉すようにして無駄な分をそ
ぎ落としておく。熱を加えるまでベタつくことはない



大胆に切る

工程3 カット

次は割れてしまったヒビの反り上がっている部分を切っていく。ただ平らにするのではなく、断面で見た時にV字になるようにするのがポイント。こうすることでパテの載る部分をより多く確保している

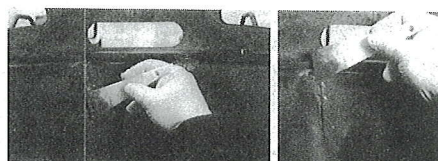


シートを貼りつけたら熱を加えて接着剤を固める。通常は専用のアイロンで押しつけながら熱を加えていくが、このダッシュボードのように貼る場所が奥まっている場合にはコツがいる。金属製のコテをシートに押し当てておいて、そのコテをヒートガンで熱するようにするのだ

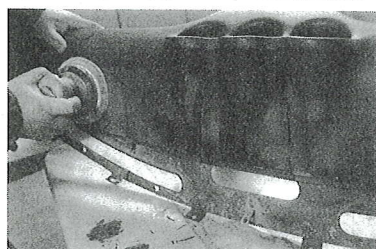
工程4 キズ埋め

削り粉を落とした後は、パテ盛り。パテには熱硬化性を使うこともあるが、旧車のダッシュボードのようにあまり熱を加えたくない場合には、時間で硬化するタイプを使うなど、ケースバイケース

割れ目にパテを流し込むように必要額で盛っていく。ちなみに、熱硬化性の専用パテはニールレザーにも使用が可能。物でも弾力も残り、シートや室内内張りなどの表皮修復などにも使うことができる

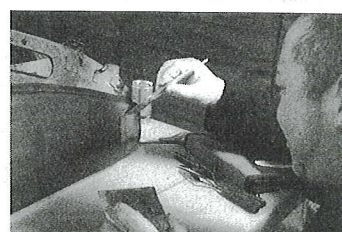
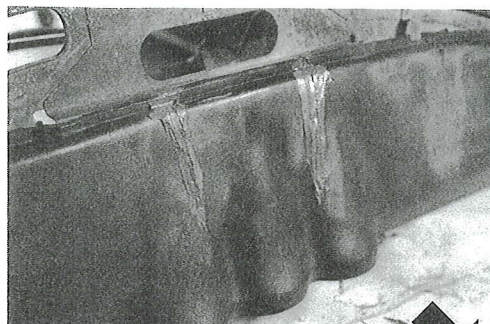


ヒビ自体は細くても、塗装の範囲はその周囲に及ぶので、カットやペーパー掛けは広めにおこなう



大きなヒビにはカッターナイフとグラインダー、その他の細いヒビにもグラインダーを使って表面をならし、この後のパテの密着性を上げるための足付けをする。ヒビで盛り上がっている部分を無くし、また、削りすぎないように素手で触りながら削っていく

奥が深いリペアの世界
今回作業したようなS30くらいの旧車になると、修復する部分以外にも、表面がすでに波打っていたりするのでリペアする範囲の見極めが難しい。そういったことも考慮しつつ、ここでは広めに表面をならし、パテによる成形作業をおこなっている。表面全部を作り直すのは大作業になるので、どこまでをリペアするのかなどは、作業を依頼する時点で打ち合わせておくといだろう。

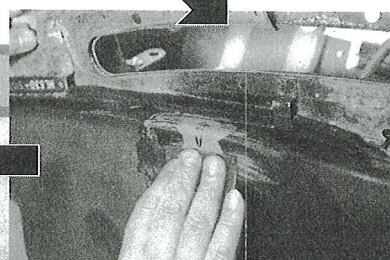
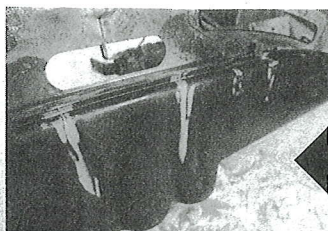
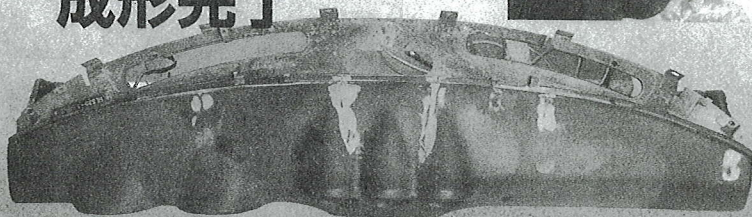


3連メーター上の大きな2つの割れ目と、その左右にある小さなヒビ、衝撃によって付いた穴のようなキズ部分に素早くパテを盛っていく



ベース剤を塗布

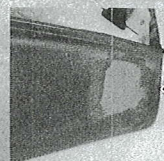
成形完了



工程5 削り

パテをじゅうぶんに硬化させてから、耐水ペーパーによる成形作業に移る。この辺りはボディの板金作業と通ずる部分だ。キズの周辺も平らにならしていく

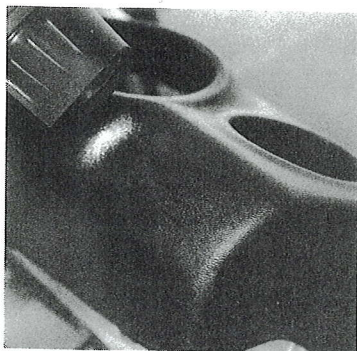
ヒビやキズの部分以外にパテが残っているのは、このダッシュボードの表面が波打っていることの証。自然な状態に直すためには、やはり技術を要する



工程6 調色



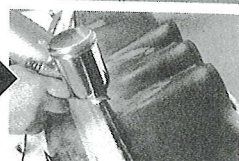
次は、ダッシュの色に合わせて塗装する色を調合する。使うのは水性の専用塗料で、ISO9001取得済みの無害、無臭性というインテリアにも適した物



パテ成形後に塗布したベース剤には、特殊な水性塗料の密着性と耐候性を上げるという効果があり、塗る対象によって数種を使い分けている。ダッシュボードの表面はベース剤によって元の色が出た状態なので、そこに調色した塗料を試し塗りする



工程7 塗装



ベース剤の塗布と調色、マスキングという準備が整ったらいよいよ塗装に入る。右手に塗装ガン、左手にはドライヤー

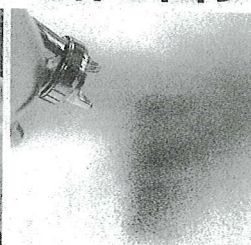


独特なガンの使い方



乾かしつつ
乾かしながら

塗装ガンでシボを作り出す

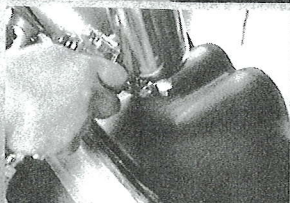
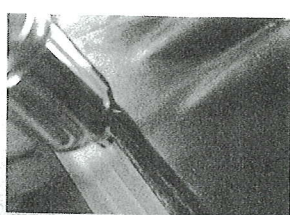


ダッシュボード表面のシボ模様を塗料によって作り出していくため、塗装ガンの使い方も独特なスタイルでおこなわれる。塗装前にガンを調整し、試し吹き...をおこなっておく

ガンで少量ずつ塗料を吹いたら、ドライヤーで乾かしつつ、また吹いていく...という特殊な方法で少しずつ作業を進めていく



ガンの使い方も、ツヤを出したり、逆に消したりもできる。ちなみに、塗料のラインナップは豊富なので、パーツの全塗装をする場合には、好みの色を指定したり、光沢あり、マット調など、オプションならではの特注することもできる



ツブの大きさ、形状などを、ガンの向きや距離、塗料の出し方で微妙に調整しながら模様を付けていく

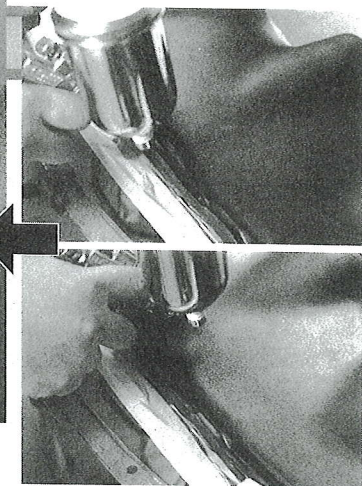
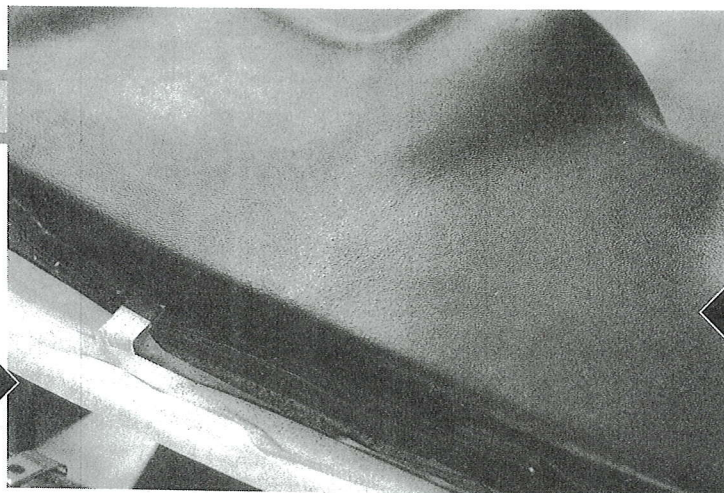


ダムを作る

ガンと塗装面の距離はハンパじゃなく近く、トリガーの握り具合も極小。作業する岡田さんによると「普通の塗装とは正反対の使い方。少しずつ出していくのでガンにとって厳しい状態で、ノズルも詰まりやすい」とのこと

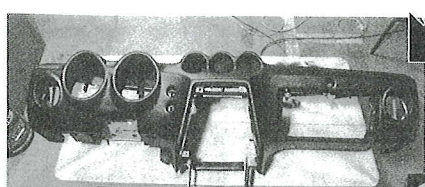
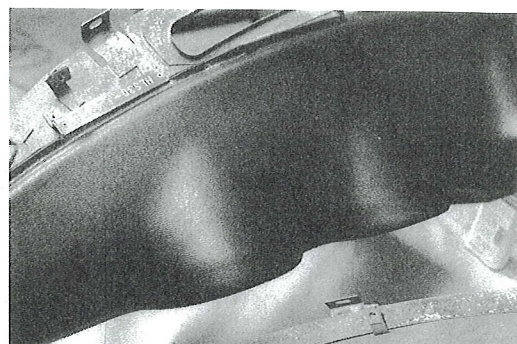
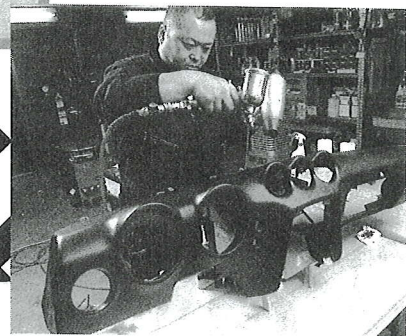
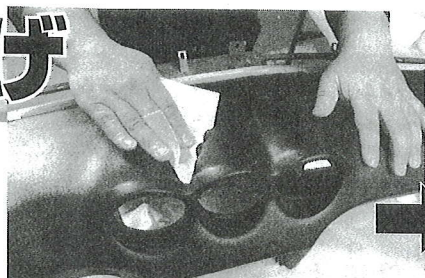
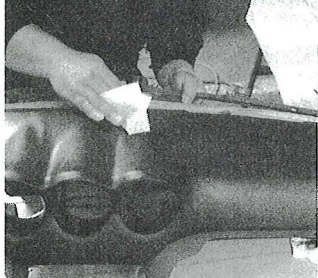
塗装

塗料の噴霧をまめに調整しながら少しずつ塗り重ねることで、平らだった成形部分にシボ模様ができてあがってくる。かなり細かい作業なので、集中力を要するのはもちろん、シボを作るのが広い範囲になるほど時間とテマを要する。ガンと塗料があっても、さすがにプライベートで手軽にできるワザではない...

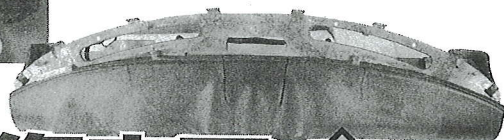


仕上げ

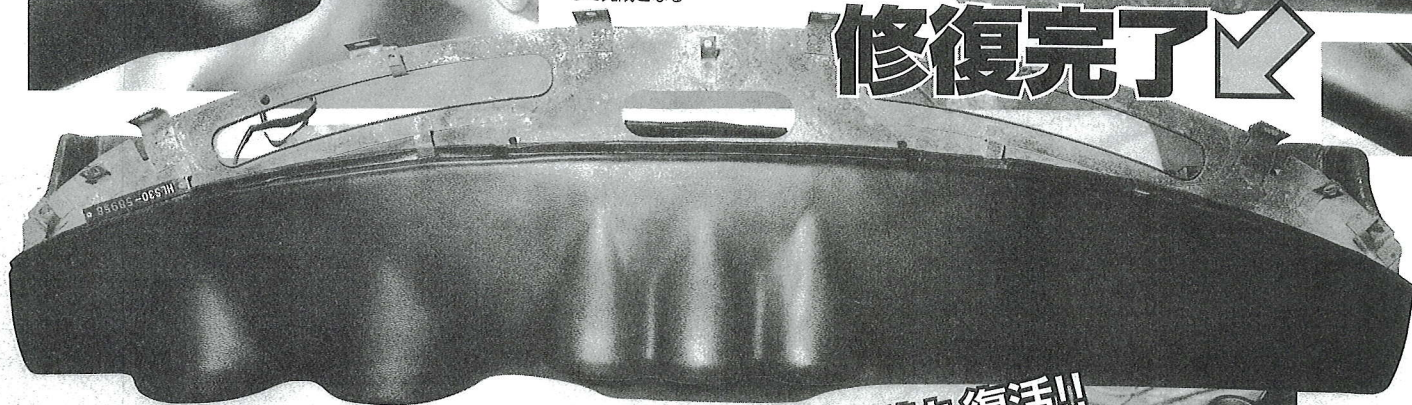
最後に塗料で作ったシボの高さを合わせるために、周辺とのバランスを見ながらペーパー掛けを軽くおこなう。また、ガンの吹き付けだけでもシボの高さを合わせるという方法もあるそうだ



ダッシュボード全体に塗装したら、仕上げに耐摩耗性を上げるためのコーティング剤を塗布して完成となる



修復完了



色・艶も復活!!



割れを修復したのはもちろん、それ以外の箇所も入念なクリーニングとコーティングによって見違えるような状態に。ヒビの数や状態にもよるが、ダッシュボードなら1~2日という作業時間が目安

大物から小物まで リペアで生まれ変わる

新品が出る物なら悩むことはそれほどないけど、すでに無くなった絶版品だからこそ、今ある物を活かしたい。そんな多くの旧車乗りにとって、リペア屋さんは頼りになる存在だ。

今回のS30ダッシュボードでは、ヒビがまんべんなく4箇所もあり、しかも全体的にヤれた状態だったため全塗装をしているが、小さなヒビの場合は部分的な塗装でもリペアできる。また、作業をおこなったスプリムモータースでは、ダッシュボードの他にもシート(モケット地)に開いた穴のリペアや、ビニールレザーの擦れ・破れのリペアなど、幅広く手がけているので、気になった人は問い合わせてみよう。